『最後は心にあり』

愛知県
武徳館剣道教室
小学６年生　　鈴　木　竣　介

日本武道館の電光掲示板に、「武徳館」の名が載り、道場のみなさんから歓声が上がった。その瞬間、僕の今年の目標の一つが叶った。僕は剣道を始めて６年目になる。体が小さく、稽古では倒され、低学年の頃の試合で、相手に攻められたりして、毎回のようにコートから出されてしまっていた事をよく覚えている。また、普段の僕は、物事に対して特に積極的でなく、道場でも、あまり目立つ方ではない。そんな、何も特別じゃない僕が、あの日の日本武道館で、３位という成績を残せたのは、どうしてだろうか。僕は考えた。

僕の道場では毎年、先生がその年々の大切な言葉を背中に印刷したポロシャツを作ってくれる。今年の言葉は、『百術不如一誠』だった。この言葉の意味は、「百の戦術があっても、一つの真心には及ばない」という事だ。さらに、そのポロシャツには、他の言葉も書いてある。『運は天にあり、鎧は胸にあり、手柄は足にあり』という言葉だ。その後に『最後は〇にあり』と書かれている。僕はポロシャツをもらった時から、その〇が気になっていた。僕が思うに、その〇に当てはまる言葉は、各自が自分で考えて決めろということだと思った。今までにも、色々な言葉の入ったポロシャツがあったが、僕は、今年の言葉に何かを感じた。そして、『百術不如一誠』と、その〇に当てはまるものが、３位になれたカギだったのだと思った。

僕は稽古の日、だいたい開始１時間前くらいに道場へ行っている。中学生キャプテンの兄は、道場に着くと、窓を開けたり、見学のお父さん、お母さん方が座るマットを出したり、手際よく準備をしている。他にも早く来ている仲間は、準備が出来ると、すぐにタイヤ打ちを始める。しかし僕は、道場に着いても、兄の後について少し手伝うくらいで、すぐにタイヤ打ちを始める事もなく、「自分がやる」という気持ちが、出ていなかった。

全国大会のコート決勝、一対一で代表戦になった。緊迫した間合いの攻防が続いて、僕たちの大将が思い切って打った胴が、見事に決まった。勝った喜びと、仲間の頑張りが、心に響いてきた。電光掲示板に表示された決勝トーナメントに『武徳館』の名前が載ったのを見て、僕達の気持ちは、一気に盛り上がった。「ここまで来たら」という気持ちになり、負けを怖がる気持ちは、一切なかった。その時、僕の体に不思議な力がわいていた。今思うと、低学年の時に、大将で出場した大会と同じ感覚だった。決勝戦で全員が引き分けで代表戦になった時、「どうしよう」という気持ちは全くなく、「僕が行く」という気持ちになっていた。仲間と共に戦って、応援で盛り上げて、危ないところをみんなでカバーし合う「チームワーク」というみんなの真心が、僕に力をくれたんだと思う。全国大会も、みんなが同じ一つの気持ちになっていたと思う。そして僕達は、決勝トーナメントをそのまま勝ち進み、あの大きな舞台で、３位という成績をおさめる事が出来た。全国大会に出てくるチームは、どこも強く、体が中学生のように大きい選手もいる。僕達は、他のチームに勝る技を持っているわけでもなく、体も小さい。でも、気持ちだけは負けていなかったんだと思う。『百術不如一誠』仲間との気持ちが、相手の戦術や体格を忘れさせる力を出させてくれた。

全国大会が終わって、僕は、いつも通り稽古に通っている。人まかせになっていた準備も進んでやっている。少しずつだけれど、自分に出来る事を積極的にやってみようと思う。先生が言って下さったように、自分自身としっかり向き合って、自分との戦いに挑んでいきます。自分の気持ちに迷いなく、心を決めて行う。そのことが、自分を強くしてくれる。『最後は心（自分の気持ち）にあり』その気持ちを忘れずに、自分に負けないよう、これからも頑張っていきたいと思います。